

令和 7 年度 県立土浦第一高等学校(定時制)自己評価表

目指す学校像			
生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現できるような成長を目指す。 ・自己肯定感を持って主体的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認めた国際的視野を養うことを目指す。 ・自らの将来像を明確に意識し、より高い進路実現を目指す。 		
教員	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら仕事の効率化を図り、心の余裕を持って業務内容の改善を行うことで、WLB の向上を目指す。 ・常にリスキングを行うことで、自身の成長から自己肯定感を強めて、得られた知識を同僚及び生徒に還元し、全ての生徒の進路希望が実現することを目指す。 		
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓が行き届き、生徒が積極的に学べる場所、楽しく、安心して、やるべきことに集中できる場所を目指す。 ・プロセス、ガバナンス、コンプライアンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な管理を目指す。 ・保護者、同窓生、地域、国内外の教育機関などとの連携を強化し、より良い教育基盤の構築を目指す。 		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・志及び好奇心があって、何事にも興味関心を持ち、自ら考え、行動できる生徒。 ・自己分析、自己管理、時間の管理、健康管理について常に意識する生徒。 ・自己の適性について考えることができ、その能力を存分に生かしたいと考える生徒。 	
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした質の高い授業及び考査を実施し、主体的な学習態度を育成する。 ・特別活動や学校行事を推進し、自主、協働、感謝の精神を育成する。 ・主体的に行動しながらも、協働の価値を理解し、多様な考え方を受け入れる国際的視野を育成する。 ・自己管理、時間の管理、健康・食事・睡眠の管理について定期的に啓発し、常に高い意識を持って生活できるように支援する。 ・キャリア教育、探究教育、多言語教育、グローバル教育などを含めた総合的教育のさらなる深化を図る。 	
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを分析・理解し、高い目標を持ち、妥協のない進路が選択できること。 ・人格形成を通じて、自己肯定感を持ち、あらゆる場面でスマートに対応できること。 ・本校を卒業して広い世界に出た時に自分に自信を持てるようにすること。 ・土エネットワークを最大限に活用し、様々なことに挑戦できること。 	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況

別紙様式 2 (高)

<p>「重点目標」「具体的方策」の各評価項目において、いずれの分野においても適切かつ妥当な評価を得ている。</p> <p>今年度の本校教育活動の一層の充実を図るための課題は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着と分かる授業の展開 ・進路指導の充実 ・基本的生活習慣の確立 ・生徒理解の充実 	<p>主に生徒に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎学力と応用力の向上：各教科の基礎知識を自主的にしっかりと身につけると同時に、論理的思考力・想像力・分析力・判断力・表現力・課題解決力といった応用的な力も高め、大学受験や将来の進路選択に備える。 ② 自主的・協働的な学びの実践：授業内外で自ら課題を見つけ、調べ、考察し、発表する探究型学習を積極的に行い、グループワークやディスカッションなどを通して協働的な姿勢を養う。また、部活動や文化祭・体育祭といった学校行事に取り組むことで、仲間との絆を深め、責任感やリーダーシップを育てる。各教育活動においてしっかりした目標管理とスケジュール管理を行うことで充実度や満足度を高める。 ③ 人格の形成と社会性の育成：礼儀、思いやり、ルール遵守、自律的な行動、ストレスマネジメントやタイムマネジメントなど、人としての基本的な態度を身につけ、将来の社会生活に必要な人間力を高める。また、いじめを許さない心や、他者を思いやる心を育成するとともに、豊かな人間関係づくりを支援する。 ④ 進路実現に向けた主体的な準備：上記全てを網羅しつつ、自己分析と自己理解を通じて自分の興味・関心を深めながら、職業体験や進路ガイダンス、キャリアパスポートの活用、探究活動などを通して、自らの将来像を描き、進路実現に向けた目標を設定して努力する。 	<p>C</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の積極的発信 ・働き方改革の推進 	<p>主に教職員に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 主体的・対話的で深い学びの実現：生徒の主体性を引き出す授業を設計・実践し、アクティブラーニングや協働学習を積極的に取り入れて、思考力・判断力・表現力を育成する。深い学びの場を提供することで、生徒による授業満足度3.5以上を目指す。 ⑥ 生徒理解と教育的支援の深化：生徒一人ひとりの個性・発達段階・家庭環境等を的確に理解し、学習面・生活面・進路面でのきめ細やかな支援を行うとともに、関係機関との連携も図る。キャリアパスポートの活用によるキャリア教育、進路支援を通して進路実現を支援する。 ⑦ 継続的な授業改善と研鑽の推進：「導入～授業～確認」を基本とした授業の流れを確立する。授業評価や研究授業、同僚との協働による授業研究などを通して、自らの授業力を絶えず見直し、向上させる姿勢を持つ。 ⑧ ICTを活用した教育の充実：ICT機器やデジタル教材を効果的に活用し、学習の個別最適化や協働的な学びを実現するとともに、生徒の情報活用能力の育成に努める。自らや職場のICTリテラシーを高め、作業効率の向上に努める。 ⑨ セルフマネジメントとコンプライアンスの確保：健康管理、身だしなみの管理、リスクリリング、時間管理やWLBの向上に努め、教職員として持続的にパフォーマンスを発揮できるよう心身のバランスを保つ。教育者としての職責と公共性を自覚し、法令遵守・個人情報保護・ハラスメント防止などに留意した誠実な行動を実践する。 	<p>B</p>
	<p>主に学校に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 学校ビジョンの明確化と共有：学校の方向性を明示し、生徒ファーストの精神を持って、生徒・教職員・保護者が一体となって目標に向かう風土をつくる。6か年(全日制中高)進路支援計画を構築し、オールラウンド教育、リーダーシップ育成を目指す。 ⑪ 生徒の多様な学びを支える教育環境の整備：明るくて清潔な教室、ICT機器や施設・設備の充実、安心・安全な学習環境づくりを進め、生徒一人ひとりが主体的に学びに向かえる空間を整備する。また、インクルーシブ教育や心のケアにも配慮した支援体制を構築する。 	<p>B</p>

別紙様式2 (高)

			⑫教育活動の質的向上と学力・人間力の育成：授業改善、探究活動、国際理解教育、部活動などを通じて、生徒の学力・思考力・表現力だけでなく、主体性や協働性、豊かな人間性を育成する教育活動の充実を図る。 ⑬教職員の専門性向上と働きやすい職場づくり：教職員一人ひとりの資質・能力の向上を支援する体制を整えるとともに、業務の効率化・分担による働き方改革を推進し、教職員が安心して教育活動に取り組める環境をつくる。学校全体として法令順守に努める。 ⑭地域との連携・情報発信による信頼と共創の学校づくり：保護者・地域・企業・大学などとの連携・協働を深め、地域に開かれた学校としての役割を果たす。また、教育活動や成果について積極的に情報発信し、学校への理解と信頼を高める。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題	
教科指導	基礎学力の定着を図る。	一人一人の能力を把握し、必要に応じて補習授業等を積極的に実施する。①⑤⑦	C	B	生徒間での意欲・学力の差が顕著であり、今後ますます個別最適な学びが求められる。個に応じたきめ細かい指導の充実を図っていきたい。	
		観察、応答を通して、生徒の理解度、達成度を把握しながら授業を展開し、「読み」・「書き」・「計算」などの基礎学力の定着に努める。①⑥⑧	B			
	個に応じた指導の充実を図る。	幅広い進路ニーズに応えるため、個別指導等の充実を努める。②③④⑥	B			
		小テスト等を実施し、生徒の理解度・到達度の把握に努める。①⑦	C			
教科	国語	基礎学力及び学習意欲の向上に努める。	生徒の興味・関心や共感のもてる教材を選択し、生徒が主体的に参加する授業を展開する。⑤⑦	B	B	相談したり人の前で発表したりする機会を増やす。
			漢字・語句に関する小テスト(月2回程度)の実施をとおして、語彙力の向上に努める。①	B		小テスト及び補習の継続的指導を実施する。
			定期テストの結果を踏まえ学習理解の定着が不十分な生徒については補習を行う。⑥	B		
	地歴 公民	基礎学力の向上を目指した指導の充実を図る。	基本的な知識を修得することを目標として、進度をコントロールし、他教科の内容なども含めた学習を心がけ、高校生の履修内容にふさわしい段階まで理解を深める。⑤⑦⑨	B	B	歴史・社会事象への自己の意見等を他者に説明・表現できるようにする。
	数学	基礎学力の定着と向上を図る。	基礎基本の内容に十分な時間をかけて指導する。①⑤⑥	B	B	グループ学習や発表の機会を増やす。
			授業毎のプリントを作成し、単元の小テストを実施する。①②	B		小テスト・補習授業について次年度も継続実施する。
希望する生徒を対象に、課外授業を実施する。②④			B			
学習習慣の定着を図る。		ノート、ファイルを定期的に点検し、「書く」習慣の定着を図る。②	B			
理科	基礎学力の定着を図る。	ノートを点検し、「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。①	C	C	高卒認定試験の出題科目「物理基礎」、「化学基礎」、「地学	
	個に応じた指導の充実を図	幅広い進路ニーズに応えるため、個々の学力・能力に応じた個別指導の充実を努め	C			

別紙様式 2 (高)

	る。	る。④⑥			基礎、「生物基礎」の課外を実施し個別指導の充実に努める。	
		小テスト等を実施し、生徒の理解度・到達度の把握に努める。①	C			
保健 体育	生徒の実態を踏まえた指導計画の充実を図る。	年齢層等に違いのある定時制の生徒の実践を踏まえた調和のとれた弾力的な年間計画にする。②	B	B	限られた時間及び施設を効率よく活用し、運動量を増やすための種目選択をする。生徒間同士の協働的な活動ができるようにする。自己の健康意識の向上を図ること及び地域社会への興味・貢献を促す。	
		生徒が運動の楽しさや達成感を味わうことのできる指導計画を図る。②③	C			
		保健学習における内容の重点化を図り、単元指導計画の工夫・改善を行う。③⑪	B			
	豊かなスポーツライフの実現を図る。	互いに協力し、練習やゲームを通して体力・能力を高め、生涯体育に繋げると共に、コミュニケーション能力を高める。③	C			
		学習の効率や安全性を高める集団行動の指導を徹底する。②	B			
		健康な生活への実践力を培う。	課題学習やライフスキル教育等、多様な体験的、実践的学習方法の活用や受け身にさせない自主的・自発的学習を促進する。②⑧			C
	自主的、自発的学習を促進する。②⑤	C				
美術	幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成し、生涯にわたり美術を愛好する心情と豊かな情操を育む。	生徒の実態に沿った課題選択を行い、一人一人の個性や感性に沿った個別指導を充実させる。①②⑥	B	B	美術の諸能力の向上を図るとともに、自己表現するための発表の場をさらに増やし、グループ活動を通して、お互いの個性や感性を認め合えるような授業を展開する。	
		相互鑑賞等をとおして、他者の考えや表現に共感する鑑賞の能力を高めるとともに、自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力やコミュニケーション能力を向上させる。①⑤	A			
		生徒自らが工夫した表現活動や相互鑑賞などにより豊かな心情を育て、美術の諸能力の向上を図る。②③	B			
英語	基礎学力の向上に努める。	ICT 機器を活用し映像等を使い、授業の中で英語表現を覚えさせる。⑧	A	B	ICT の効果的活用、グループワーク等について、さらに進化させつつ継続指導する。	
		ノート等を定期的に点検し、生徒たちの授業への取組の改善を図る。①⑦	B			
	オーラルコミュニケーションの活用に努める。	アクティブラーニングを取り入れ、グループワークなどを活用し、思考力・判断力・表現力を養う授業を積極的に行う。②⑤	B		B	簡単な表現を使った発話を促す。 異文化に触れる機会を増やす。
		授業時における生徒相互の会話において、ペアやグループで、英語を積極的に使用させる。⑤	B			
		ALT を活用した実践的なオーラルコミュニケーションと多文化理解を推進する。⑤	B			

別紙様式2 (高)

家庭	生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得する。	授業において学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を解決する力を育成する。①②③	B	B	基本的な知識と技術の習得を考えたワークシートや実習内容、ICT活用の工夫。 個々の力に合った実習内容を工夫し、達成感が味わえる指導。
		技術の習得について、生徒一人一人の能力にあった個別指導の充実に努める。⑥	B		
情報	基礎学力の向上を図り、ICTを活用する能力を身につけさせる。	情報と情報技術に関する問題に対して主体的に対応できる力と姿勢を育成する。⑤	B	B	生徒が主体的に学べるような個別最適な授業展開や教材を工夫し、情報リテラシー教育も含めて、人間性の更なる向上のために寄与する。
		パソコンに関する基本的な知識や操作の定着を図る。⑥⑧	B		
商業	基礎学力の向上を図る。	基本的な内容を理解し、実生活に役立つ力を身につけるよう学力の定着を図る。①	B	B	実学としての商業教育の定時制での在り方を模索する。生徒の興味関心を惹くことができるような授業展開を心掛ける。定時制の生徒に対して、商業科目としてどのような価値を提供できるか、考えていく。
		課題学習の内容を精選し、教材や指導方法の工夫をする。⑤⑥	B		
教務	ICTの活用を含めた授業の質の向上と授業時間確保に努める。	ICTを活用した教育活動を促進し、効果的に授業等に活用することで授業の質の向上を図る。⑦⑧	B	B	電子黒板の円滑な利用とタブレット端末を利用した個別最適な学びの構築を目指す。情報提供のためにも、定時制の情報を積極的に発信し、定時制のことを知ってもらう。中学校訪問等を積極的におこない、情報交換をおこなう。
		授業開始・終了時刻の厳守、教科・科目の授業時数の確保に努める。⑫⑬	A		
	探究活動の推進を図る。	総合的な探究の時間の推進を図るため、教材等を十分に検討する。②④	B		
	教員研修の推進に努める。	ICTをはじめ、様々な研修を実施し、指導法への活用とともに教員自らの働き方への意識改革に努める。⑦⑧⑫	A		
	学校情報を積極的に発信する。	ホームページをこまめに更新するとともに、中学校訪問等を充実させる。⑭	B		
	PTA活動の充実に努める。	保護者懇談会やPTA新役員の選出を円滑に行う。⑩⑪	B		

別紙様式2 (高)

	アルバイトを奨励する。	アルバイトを奨励し、アルバイト90日助成を行う。③④	B		
特別活動	学校行事等を積極的に行い、生徒会活動の充実に努める。	生徒会を中心に生徒主体の行事を実施し、自治的精神を涵養する。②③	B	B	生徒会を中心とした学校行事への積極的な参加を促すこと及び行事の精選。
		学校行事等で人間関係形成・社会形成能力の育成を図るとともに、継続的な生徒会活動を充実させ、生徒が主体的に取り組めるようにする。②③⑪	B		
生徒支援	課題を明確にした指導体制の充実に努める。	巡回・巡視活動を通して、問題行動等の未然防止と解消を図る。⑥⑪	B	B	校内オンライン相談窓口への相談が1件のみであった。生徒に悩みがあった際、気軽に窓口へ相談できる取り組みを行いたい。
	日常生活上の諸問題を生徒自らが解決する取り組みの充実に努める。	好ましい人間関係づくりと自己抑制能力を身に付けるための取り組みの活性化を図る。③⑥	C		
	連携・協力して問題を解決する体制づくりの充実に努める。	教育相談体制を確立する。(孤立傾向にある生徒への積極的な声かけ)⑥⑪	B		
		教職員間、学校と家庭、地域社会、関係機関との情報交換の推進と協力連携によって、いじめや不登校、中途退学や暴力行為等の問題を早期発見、未然防止の強化を図る。⑥⑭	B		
進路指導	個に応じた多様な進路指導の充実に努める。	進路説明会・就職指導の実施:全校生徒を対象に就職・進学などの進路に応じ、説明会を実施する。面接の練習など、きめの細かい就職指導をする。③④	B	A	生徒への多様なアプローチを次年度も継続。 面談の機会を増やす。 個々の目標達成に向けた連携をさらに強化する。
		進路意識を養う:折に触れて進路意識を養うように努める。④⑥	A		
		具体的進路実現に向けた支援:個々の生徒の進路実現をより具体的に把握し、ホームルーム担任と連携し、その実現に努める。③④⑥	A		
保健給食	心身の健康に留意し、規則正しい生活の促進に努める。	学校感染症の感染予防を徹底する⑨⑪	A	A	教育相談、感染症予防、校内学習環境、避難訓練等について、次年度も継続していく。 食事中の携帯電話の使用を控えるように指導する。
		心身の悩みに関しては、その都度適宜相談に応じる。③⑪	A		
	学習環境の安全と衛生に努める。	清掃の徹底を心がけ、美化意識を高める。⑪	A		
		避難経路を作成し、安全・迅速な防災訓練の実施をする。⑪	A		
	給食での衛生・マナー指導のさらなる向上を図る。	毎食ごとの手洗いの実施を引き続き行うとともに、食前食後の挨拶を奨励する。③⑪	B		
第1学年	定時制の生活へ早期転換	オリエンテーション等を活用し、定時制についての理解を促す。③	B		規範意識の育成を図るた

別紙様式2 (高)

	の支援に努める。	生活実態調査や生徒面談、保護者との密な連絡等を積極的に実施して、生徒の情報収集に努める。そして、生徒一人一人の生活環境等を把握することで、生徒支援に活かす。⑥⑪	B	B	め、自己指導能力を高める取り組みを行う。
	望ましい学級集団作りに努める。	生徒一人一人と積極的に関わり、生徒との好ましい人間関係をつくる。③⑥	B		
		生徒一人一人の意見や考えを尊重し、協力し合う楽しく明るい活気ある学級集団づくりに努める。③	B		
	基本的な生活習慣の確立と豊かな人間性の育成を図る。	生徒相互のかかわり合いの中から思いやりの心を育成し、それとともにトラブルや葛藤、躓き等を乗り越えるたくましい心を育てる。②	B		
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能(挨拶・礼儀・マナー)を身に付けさせる。③	C		
第2学年	自己実現を図るための基礎学力の向上に努める。	定期考査等を有効活用し、努力することの大切さや必要性を理解させる。①⑤	B	B	こまめに声かけをして、生活面や精神面をケアできるようにする。
	進路指導の充実に努める。	二者・三者面談を行い、生徒・保護者の希望を確認し、よりよい進路実現を目指す。④	B		
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能(挨拶・礼儀・マナー)を身に付けさせる。③	B		
第3学年	自己の適性を見つめ、適切な進路選択を図る。	希望する生徒には3修3卒を積極的に働きかけ、生徒の進路実現につなげる。①④	B	B	自立するための基本的な生活習慣を身につけさせ、他者とのかかわりの大切さを知り、適切な進路選択へと導く。
		進学希望者には、学校の紹介や学費の説明を通して、選択肢の数を増す。④⑪	C		
	家庭との連携に努める。	三者面談を通して、生徒の家庭での不安や悩みの解決に努める。⑭	C		
		遅刻や欠席を減らすため家庭への連絡を密に行い、進級・卒業を目指させる。⑭	B		
規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能(挨拶・礼儀・マナー)を身に付けさせる。③	B			
第4学年	進路意識を涵養し、最善の進路実現を図る。	個人面談や普段からの働きかけにより、自らの進路意識を高めて、最良の進路選択をして積極的に進路活動ができるようにできるよう指導する。③④⑥	B	B	社会に通用する基礎学力の獲得、積極的な進路選択に向けた指導を継続する。
	基礎学力の向上に努める。	定期考査等を有効に活用し、進路を実現するための学力を定着させる。①	B		
	規範意識や社会性の育成を図る。	社会人として自立するための知識や技能(挨拶・礼儀・マナー)を身に付けさせる。③	B		

別紙様式 2 (高)

働き方改革	働き方改革への意識を高める	ICTに関する研修を実施することで、授業への資料等をICTで共有するなどして、業務の見える化を図り、働き方改革への意識を高める。⑦⑧	B	A	校務の更なるICT化を促進していきたい。
		勤務時間の管理を徹底する。⑧⑨	A		

※ 評価規準：[A、B、C、D、Eの5段階で評価する]

- A・・・十分達成できている
- B・・・達成できている
- C・・・概ね達成できている
- D・・・不十分である
- E・・・できていない